

(別記様式)

令和7年度 学校運営改善シート

学校名	筑波大学附属久里浜特別支援学校	
	令和6年度	令和7年度
校長名	齋藤 豊	齋藤 豊
幼児・児童・生徒数 (5月1日現在)	50名	51名
学級数	18	18

学校教育目標	○子供一人一人の思いや個性を大切にし、障害特性等に応じた指導を通して、主体的に考え、判断し、表現する力と態度を育成する。 目指す子供像：人との関わりを楽しむ子、自分なりに考え行動する子、自分の考えや思いを表現する子
学校運営方針	○附属学校として果たすべき使命を遂行するため、教職員の協働体制を再構築し、保護者や関係者と連携を図りながら、子供一人一人を確かに育てる教育を追究する。 (1) 筑波大学の教育・研究及び事業への貢献 (2) 先導的な教育・研究の展開と成果の発信 (3) 安心・安全で信頼される学校づくり (4) 役割の自覚と決まりの遵守 (5) 教職員の専門性の向上 目指す教職員像：学校の使命を自覚し、同僚との協働によりその遂行を目指す教職員。幼児・児童の安全・安心を守る教職員。幼児・児童一人一人を理解し、寄り添うことができる教職員。専門性を高めるため研鑽を積もうとする教職員。保護者や関係者と十分にコミュニケーションを図り、信頼される教職員。公私を区別し、同僚とも節度ある態度で接する教職員。法令を遵守し、任された校務を、責任を持ってやり遂げる教職員。

附属学校群の ミッション	Design Education for Inclusive and Global Society (インクルーシブでグローバルな社会を実現するための教育をデザインする) ○時代を切り拓く教育のデザインと革新的な教育実践の追求 ○多様性を尊重しインクルーシブな社会を実現する人材の育成 ○グローバルな視野をもち持続可能な社会を実現する人材の育成 ○パートナーシップによる未来の共創 ○ウェルビーイングの向上と安全安心な環境の創出
-----------------	--

(別記様式)

学校名	筑波大学附属久里浜特別支援学校
-----	-----------------

【達成度】 IV・・・「目標を上回って実施している」
Ⅲ・・・「目標を十分に実施している」
Ⅱ・・・「目標を十分には実施していない」
Ⅰ・・・「目標を実施していない」

分野	重点目標	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	
			重点目標に対する評価	達成度	課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
教育課程・学習指導	○知的障害を伴う自閉症児の障害特性を踏まえた学習指導の充実とその効果を高める教育課程の見直しに取り組む。 ○個別指導やグループ別指導、習熟度に応じた指導など、柔軟な指導形態の充実と幼児児童の興味・関心等に応じた課題学習などの個に応じた指導方法の充実に取り組む。	①PEP-3検査の教員向け研修を通じて、フォーマルアセスメントの視点を実態把握や学習指導に生かすための具体的研修を行う。 ②幼稚園、小学部ともに学部研究として外部講師・助言者を招聘し、授業検討会を行うことを通して、そこで得られた知見から指導体制の整備、授業時数の配当変更などのカリキュラムマネジメントを進めていく。 ③小学部は2学年単位での合同授業を進め、学習内容に応じて、個別指導やグループ別指導、習熟度に応じた指導など、指導形態の試行を行う。	①アセスメントに関する研修会を3回実施した以外に、新たにアセスメントの結果を指導に生かすためのミニ研修会を4回実施できた。 ②外部講師3名を招聘し、授業研究会を5回実施した。授業研究会を経て、授業数の変更や授業形態の変更を進めることができた。また、授業の記録を年間指導計画に繋げる書式の改善を行うことができた。加えて、教科時数の確認を進め、授業数のバランスを検討することができた。 ③副担任制度を取り入れ、小学部では2学年単位での合同授業を増やすことができた。2学年合同の授業を増やすことで、グループ別指導、習熟度に応じた指導など、指導形態の試行を行うことができた。また、上記ミニ研修会を通して、個別指導の指導法について共通理解を深め、授業実践に反映させることができた。	Ⅲ	①研修時間の確保、研修内容の精選を更に行っていく必要がある。研修会を行う中で、研修内容の動画保存を進めているが、必要な動画内容のリスト化などを進めていく。動画化されている内容の整理を進めていく中で、全体に行うべき研修内容の抽出を進めていく。 ②年間指導計画の改善を継続していく必要がある。また、教科間のバランスを教務を中心に全体で検討を進めていく。 ③小学部で2学年単位の授業を実施することはできたが、まだまだ少ない。2学年単位での授業検討会を進めながら、幼児児童の興味・関心等に応じた課題学習やより良い指導体制の検討を行っていく。	・実践研究協議会への参加や、校内の見学を通して、久里浜特別支援学校の専門性が担保されていると感じた。環境調整や授業づくりのフォーマット等を外部に発信し、共有していけるとよい。（学校評議員・県立特別支援学校長） ・カリキュラムマネジメントの仕組み作りは進んでいると感じている。具体的な改善につながるように継続して取り組んで欲しい（研究協議会指導助言・文科省特別支援教育調査官）
進路指導・生徒指導	○地域福祉施設（児童発達支援事業所、放課後等デイサービス）や地域社会との連携協力を進める。 ○幼稚園修了生、小学部卒業生がスムーズに環境の変化に対応できるようにするための引継ぎ資料の改善を図る。	①地域福祉施設とは相互見学や情報交換、必要に応じてケース会などを実施する。また、学校公開を継続し、地域の方々の訪問・授業参観を可能にする。 ②関係特別支援学校との連絡については見学、交流活動などを実施し、情報交換を進め、引継ぎ内容の改善について検討を行っていく。 ③幼小の連絡については、お互いの指導内容を授業検討会等を通じて知る機会を作るとともに、学部間での話し合いや人事配置の工夫なども検討していく。	①地域福祉施設（事業所）との相互見学や情報交換は7事業所と実施することができた。また、児童相談所や教育委員会の子ども課などと連携したケース会議も定期的に行うことができた。学校公開では48名の外部見学者を受け入れ、地域小学校教員や幼稚園、事業所職員などの見学もあった。 ②教務を中心に引継ぎ資料の整理を行い、書式の改善を行うことができた。作成資料のスリム化を行うことができた。 ③学部間の見学などは引継ぎ時に行ったが、日常的には進めることができなかった。	Ⅲ	①相互見学や情報交換については引き続き積極的に継続していく。 ③お互いの学部を意識させるために学部間の見学、授業補助などの機会を予定に入れるようにして、計画していく。	・（地域の健常者は）障害のある子どもと接する機会が少なく、戸惑う場面も多い。地域に向けた発信や、交流できる機会を専門機関が設定してほしい。通常校の教員にも見てもらえる機会があるとよい。（学校評議員・町内会副会長） ・子ども支援部会での連携や、トライアングルプロジェクト（家庭・学校等・関係機関の連携）の一環として学校教員の見学機会も設定しており、地域に開かれた関係づくりが重要である。継続してほしい。（学校評議員・療育相談センター地域生活支援課長）
保健管理・安全管理	○学校事故や自然災害など緊急事態に迅速、かつ、適切な対応を行うための訓練を行い、安全管理能力の向上を図る。 ○知的障害を伴う自閉症児の病院受診等の困難に対し、関係機関と協力体制を構築する。	①できる限り年度当初、もしくは1学期中に訓練を実施し、対応について話し合う機会を作る。 ②安全対策委員会を中心に緊急事態発生時の対応について、確認・改善を進める。 ③必要に応じて歯科医院や耳鼻科医院などに訪問し、幼児児童の落ち着く方法や見通しの持たせ方などについて相談を行う。	①計画に沿って避難訓練やAED訓練等を実施することができた。校内で発生したけがなどについても保健室を中心に管理職と共に対応することができた。 ②安全対策委員会の検討から避難場所の変更を進めることができた。また、カムチャツカでの地震対応についても外部機関に情報を確認しながら適切に対応することができた。 ③医療受診支援について、今年度はケースとして取り組むことができなかった。	Ⅲ	①②学校事故や自然災害に対する対応については引き続き、訓練を継続していく。 ③医療受診支援については健診や健康相談の内容を踏まえ、保健室を中心に取り組んでいく体制を検討していく。	・災害時は各学校で判断を迫られることがある。地域の学校同士で緊密な情報共有を行い、対応できるようにしていきたい。（学校評議員・市内小学校長）
組織運営	○勤務時間の管理を徹底し、時間外勤務の発生を必要最小限にとどめるとともに、勤務の振替を確実にこなせるようにする。 ○人事交流自治体との連携を深め計画的な運用を図るとともに、連携する自治体の拡大に取り組む。	①各種会議の設定回数、検討内容、検討方法などについて見直しを行い、効率的な会議運営についての意見収集を継続する。 ②事務と管理職で勤務の振替とタイムカードをチェックし、勤怠管理の徹底を図る。 ③行事の精選、時期の変更などについて検討を行う。 ④人事交流自治体との情報交換を行うとともに、人材確保WGによる自治体訪問を継続する。	①会議の時間設定を変更し、育児時短制度利用者などが参加しやすい会議設定を行った。また、TEAMSを利用することが、情報共有や会議削減に有効であった。安全対策委員会や給食委員会など、一部、開催回数を減らすことができた。加えて、会議前に時間の確認などをすることで時間を短縮することが行えた回もあった。 ②勤怠管理の徹底は予定通り行えた。 ③行事についてはコンサートや運動会の実施時期を変更した。WBGTの平均値から来年度、プールの開放を実施しないこととした。 ④人事交流自治体との情報交換は予定通りに実施できた。	Ⅲ	①引き続き、会議の効率化を図っていききたい。なお、TEAMSを活用している部署も多いが、活用できていない部署があるので、改善を図りたい。他方、情報の整理やメンションの方法などについては検討を行っていく。 ④人事交流については継続できるように自治体との情報交換を密にしていくとともに、交流で得られるメリットの整理などを進めていく。	・教員不足で教員が欠員している学校が多い中で一方通行の交流については検討が必要だと考えている（東京都教育委員会）

その他	○通常学級との交流及び共同学習の機会を増やし、児童の体験の幅を広げる。 ○通常幼稚園・保育園に在籍する自閉症児支援について教育相談や情報発信を充実させる。	①横須賀市立小学校との交流や附属学校群の交流活動を継続し、交流回数を確保する。 ②居住地校交流についての情報提供を行い、希望者を増加させる。 ③通常幼稚園・保育園からの教育相談や、見学依頼に応じるとともに、本校主催の研究協議会等を通じて、知的障害を伴う自閉症児に対するインクルーシブ教育推進に関わる情報発信を行う。	①明浜小学校との交流は予定通り、実施することができた。今年度も充実した交流になったと考えている。また、つくばふぞく交流会の参加についても6名の参加を継続できた。 ②居住地校交流については具体的な情報提供が少なく、希望者を増やすことはできなかった。 ③新たに幼稚園・保育園職員や福祉事業所職員に対するミニ研修会を実施し、好評を得た。また、それをきっかけに幼稚園・保育園からの教育相談が増えた。今年度も本校研究協議会に複数の普通幼稚園、普通学校教員の参加があった。	Ⅲ	②居住地校交流に関する具体的な情報共有を行うための担当部署を検討していく。また、地域特別支援学校を含めた管理職間での情報交換を行う場の設定を検討する。 ③外部に向けたミニ研修会は非常に好評で、継続してほしいとの要望をいただいている。規模や回数など実現可能な範囲の検討を進めていく。また、併せて、新たな公開講座を開設する。	・三浦半島地区特別支援5校の連携部会構想について、実現に向けて検討していきたい。（学校評議員・県立特別支援学校長） ・通級担当者向け研修のような取組を横須賀市でも実施できるとよい。支援級在籍児童生徒が増加しており、研修機会の充実が必要である。（学校評議員・療育相談センター地域生活支援課長）
-----	--	---	--	---	---	--